

教員の受賞・研究成果

本学公式 Web サイトに掲載された記事を中心にをご紹介します。＜ 2020年6月～2021年6月＞

経済学部 准教授 村上弘毅

2020年度進化経済学会奨励賞を受賞

経済学部准教授 村上弘毅の論文が、2020年度（第一回）進化経済学会奨励賞を受賞しました。

この賞は進化経済学会が36点の論文・書籍の中から選考したもので、2021年3月27日・28日の第25回進化経済学会静岡大会において、奨励賞講演が行われました。（コロナ禍につき、Zoomにて講演）。

商学部 教授 西川可穂子

日本水環境学会「水環境国際活動賞（いであ活動賞）」を受賞

日本水環境学会では、水環境分野の国際交流・国際協力の促進を目的として、本学会の活動趣旨に沿っており、かつ優れた国際的な活動として選定されたものを「水環境国際活動賞（いであ活動賞）」として顕彰し、その費用の一部または全部の助成を行っています。この助成制度は「いであ株式会社」殿のご出捐（ご寄付）より実施するものです。

受賞者：西川可穂子

取り組み内容：水環境プラスチック汚染に関するオンライン国際ワークショップの開催

商学部 教授 久保知一

日本商業学会の『優秀論文賞』を受賞

日本商業学会の学会誌（流通研究）に掲載された論文の中から最も優れた論文を毎年1篇選び、授与されます。

受賞者：久保知一（中央大学商学部教授）

論文タイトル：『卸売業者が作り出す顧客価値とその源泉』

* 論文は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する「J-STAGE」でご確認いただけます。

理工学部 教授 三松佳彦、高倉 樹

2021年度日本数学会出版賞を受賞

この賞は、出版・著作等の活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動に対して顕彰されます。

三松教授、高倉教授が主催する数学教室の研究集会「ENCOUNTER with MATHEMATICS」が今年で開催25年目を迎えました。この研究集会は、数学研究の最先端の話題が専門家によって深くかつわかりやすく解説される場です。分野横断的な交流を促し、学部生、大学院生を含む次世代の研究者への大きな刺激となっていることに加え、これが安定的に運営されていることが顕彰に値するものと評価され、出版賞を受賞することとなりました。

授賞式は、2021年3月16日（火）に慶應義塾大学で行われ、数学教室を代表して三松佳彦教授、高倉樹教授が受賞しました。

名誉教授 篠田 庄司

電子情報通信学会業績賞を受賞

2011年度に理工学部を定年退職された篠田 庄司 名誉教授が、第57回（令和元年度）電子情報通信学会業績賞を受賞しました。

タイトル：国際的に通用する工学教育の質保証及び認定システム

篠田先生は、第42回（平成16年度）にも、「回路と情報通信のグラフ・ネットワーク理論的研究への先駆的貢献」により電子情報通信学会業績賞を受賞しており、今回は教育分野での受賞となります。

理工学部 助教 中田 明伸

科学技術振興機構（JST）「戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」に採択

理工学部応用化学科助教 中田明伸の研究提案がJST「戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」に採択されました。本事業は国が定める戦略目標の達成に向けて、独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる先駆的な目的基礎研究を推進するものです。そのうち「さきがけ」は、科学技術イノベーションの源泉となる成果を世界に先駆けて創出することを目的とするネットワーク型研究（個人型）タイプとなっています。研究者は、自らが立案した研究構想の実現に向けて、自己の研究課題の実施に責任を持ちつつ、研究領域全体の目的に貢献するよう研究を推進します。この度中田助教は、「光励起キャリアを触媒サイトに誘導する高分子光触媒の創製」を提案し、採択されました。本領域の応募件数は94件で、そのうち採択されたのは、中田助教の提案を含む10件です。

研究領域名：電子やイオン等の能動的制御と反応

研究総括：関根 泰（早稲田大学 理工学術院 教授）

採択課題名：光励起キャリアを触媒サイトに誘導する高分子光触媒の創製

理工学部 教授 中村 太郎

日本機械学会ロボメカ部門優秀論文表彰を受賞

理工学部精密機械工学科教授 中村 太郎がロボティクス・メカトロニクス講演会2021において、日本機械学会ロボメカ部門優秀論文表彰を受賞しました。

受賞の詳細は下記のとおりです。

講演会名：ロボティクス・メカトロニクス講演会2021

シンポジウム日程：2021年6月6日（日）～8日（火）

賞名：日本機械学会ロボメカ部門優秀論文表彰

受賞テーマ：蠕動運動型混合搬送機による固体推進薬連続製造の検討（日本機械学会論文集、Vol.83, No.850, p.16-00576, 2017）

受賞者：山田 泰之（元中央大学、現法政大学准教授）、吉浜 舜（元中央大学）、岩崎 祥大（学外）、芦垣 恭太（元中央大学）、松本 幸太郎（学外）、羽生 宏人（学外）、中村 太郎（中央大学）

理工学部教授 今堀 慎治

スケジューリング学会の学会賞学術賞を受賞

理工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程（2019年度修了）平野 敬祐さんと理工学部（情報工学科）教授 今堀 慎治が、スケジューリング・シンポジウム2019において発表した論文「統合可能な作業を含む調理スケジューリング問題に対する発見的解法」が、2020年度スケジューリング学会 学会賞学術賞を受賞しました。

学術賞は、スケジューリング研究者の学術的模範となる優秀な研究成果に対して、スケジューリング学会が毎年1編の論文を選定し授与するものです。

平野さんは、スケジューリングを扱う複数のテーマに対して精力的に研究を行い、在学中に4度の論文発表を経験しました。2018年には日本オペレーションズ・リサーチ学会の研究部会「最適化とその応用」が主催する研究会において、スポーツスケジューリングに関する論文発表を行い優秀発表賞を受賞しています。



平野敬祐さん



今堀慎治教授

理工学部 精密機械工学科 松本研究室

FOOMA JAPAN 2021 AP「アカデミックプラザ」でAP賞セミグランプリを受賞

2021年6月1日～4日に愛知スカイエキスポで行われたFOOMA JAPAN 2021 AP「アカデミックプラザ」にて、松本研究室の発表がFOOMA AP（アカデミックプラザ）賞セミグランプリ来場者評価部門を受賞しました。

松本研究室は、「一定方向／一定速度のベルト駆動条件下での水道水を使用したオゾンマイクロバブル含有氷の連続製造」というタイトルで、生鮮食品の鮮度保持を目的として、殺菌・脱臭作用があり残存性も全く無いオゾンガスを溶解させた水から生成されたオゾン氷の新たな製造方法・製氷システム開発について発表を行いました。AP賞は、FOOMA JAPANにおける「アカデミックプラザ」において、ポスターセッションにより発表された研究を対象とし、一般社団法人日本食品機械工業会技術委員、アカデミックプラザの来場者（主として企業人）、参加研究室の各代表による投票結果を基に、獲得ポイントが多かった発表（複数可）に対して授与されるものです。なお、FOOMA JAPAN2021は、「発想力が食の未来を変えていく。」をテーマとし、食品機械の最先端テクノロジー、製品、サービスを通して、「食の技術が拓く、ゆたかな未来」を提案するものです。



受賞式の様子



発表の様子

国際情報学部 准教授 吉田 雅裕

電子情報通信学会

ネットワークシステム研究専門委員会活動功労賞を受賞

国際情報学部准教授 吉田が電子情報通信学会ネットワークシステム研究専門委員会活動功労賞を受賞しました。電子情報通信学会は、電子情報通信分野の国際学会として、健全なコミュニケーション社会の形成と豊かな地球環境の維持向上に貢献することを目指す学会で、当学会の第一種研究会として位置付けられるネットワークシステム研究会は、ネットワークサービス・システム全般に関する技術課題についてのディスカッションや情報交換を通じて、より良いネットワークサービス・システムの具現化を目的としています。吉田の受賞は、ネットワークシステム研究専門委員会における参画と当委員会の活性化への貢献、特にICETC (International Conference on Emerging Technologies for Communications) の運営への貢献が認められたことによるものです。

研究開発機構 機構教授 池田 富樹

令和3年度文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞

研究開発機構教授 池田富樹が、「令和3年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」を受賞しました。本賞は、科学技術に関する研究開発において顕著な成果を収めた者に対し、文部科学大臣が授与します。池田は「ソフトロボットを目指す高分子アクチュエーターの研究」における業績が評価され、研究部門で受賞しました。

研究開発機構 フェロー 新井 武二

光産業技術振興協会・功労者表彰を受賞

研究開発機構 新井 武二 機構フェローが、一般財団法人 光産業技術振興協会より功労者表彰を受けました。新井機構フェローはレーザー加工の研究者であり、新井機構フェローの長年の研究活動ならびにJIS原案作成委員、光産業技術動向調査委員・委員長、安全スクール委員長等、同協会に約25年にわたり貢献したことが評価され、受賞に至りました。



研究開発機構 新井 武二 機構フェロー

研究開発機構 機構准教授 竹村 吉晴

令和2年度土木学会論文奨励賞を受賞

研究開発機構 福岡ユニット専任研究員、機構准教授の竹村吉晴氏が、令和2年度土木学会論文奨励賞を受賞しました。

受賞論文名：波状跳水・完全跳水及びその減勢区間における境界面（水面・底面）上の流れの方程式を用いた非静水圧準三次元解析（Q3D-FEBS）

受賞者：竹村 吉晴（中央大学研究開発機構）

授賞理由：従来の洪水流解析では、跳水や流れの剥離等の水理現象を十分には説明できず、河道の安全設計上の大きな課題となっていた。本論文では、平面二次元解析の枠組みに洪水流の水面形や底面形状の変化に伴う三次元的な流速・圧力変化を組み込むことで、非静水圧準三次元解析法（Q3D-FEBS）を構築し、これを大型水理実験と大河津分水路新第二床固の設計へ適用することにより、有効性と実用性を確かめている。さらに、現象の複雑さからこれまで扱うことの出来なかった山地河川の巨石等を含む土砂移動の検討を可能にする等、研究の新しい発展をもたらしており、本論文は論文奨励賞に相応しいと認められた。

研究開発機構 機構教授 石川 幹子

東日本大震災復興活動が「国土交通大臣賞」、「農林水産大臣賞」を受賞

理工学部人間総合環境学科元教授 石川 幹子（現・研究開発機構 機構教授）および研究室学生が取り組んできた東日本大震災からの復興支援活動、「移転したまちづくり」および「沿岸部の森づくり」について、それぞれ「国土交通大臣賞」、「農林水産大臣賞」を受賞いたしました。

- 復興まちづくり（宮城県岩沼市玉浦西、防災集団移転事業）第40回緑の都市賞「国土交通大臣賞」
- 沿岸域における海岸線の育成「希望の環」緑化コンクール・緑化功労賞「農林水産大臣賞」



2016年4月（森づくり開始）



2019年9月